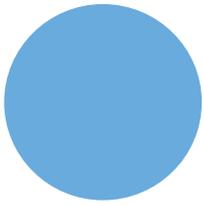




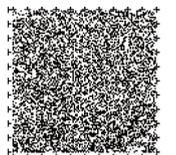
夢のあふれるまち

大江戸線延伸 光が丘～大泉学園町

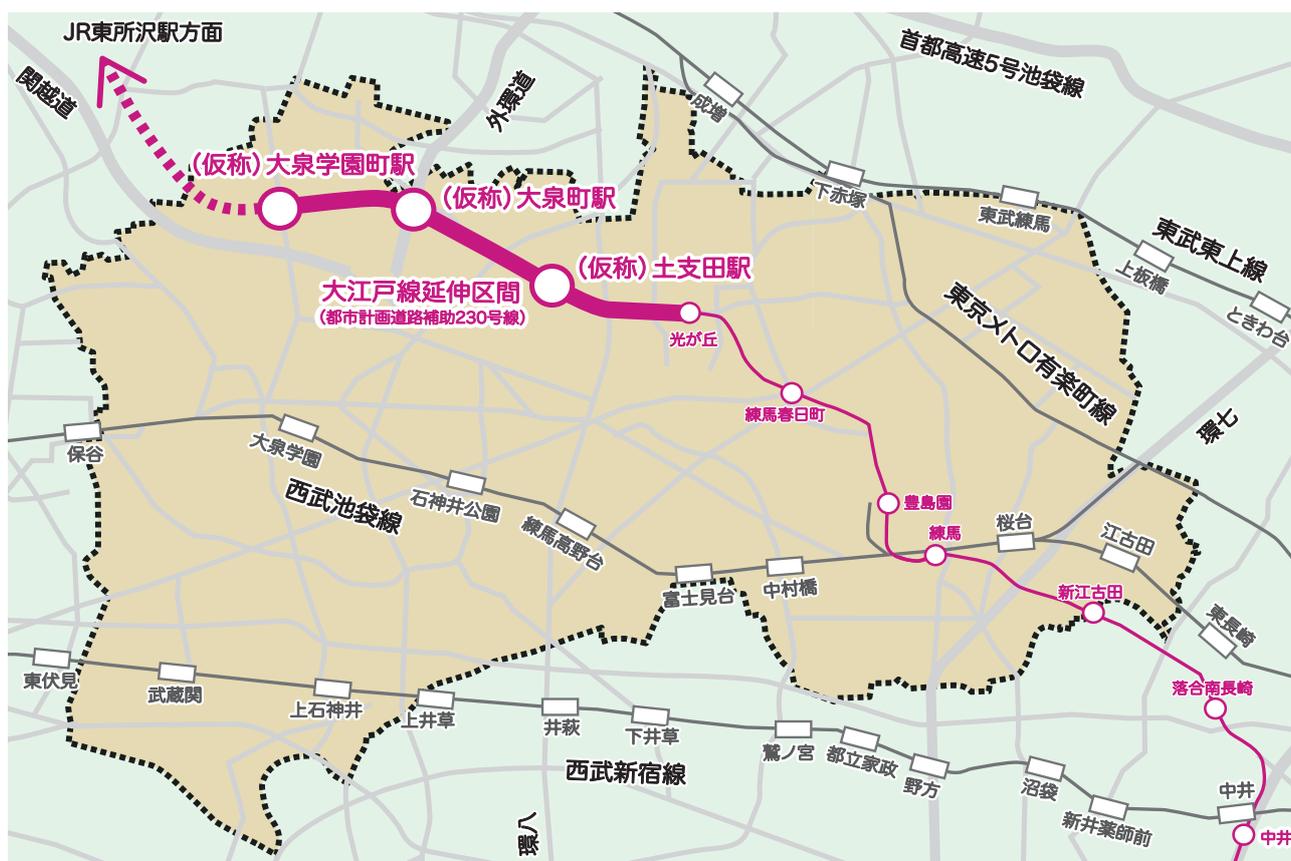


練馬区

下のマークは音声コードです。専用アプリのUni-Voiceを使用して読み取ること、パンフレットの情報を音声で聴くことができます。



「大江戸線の延伸」について紹介します



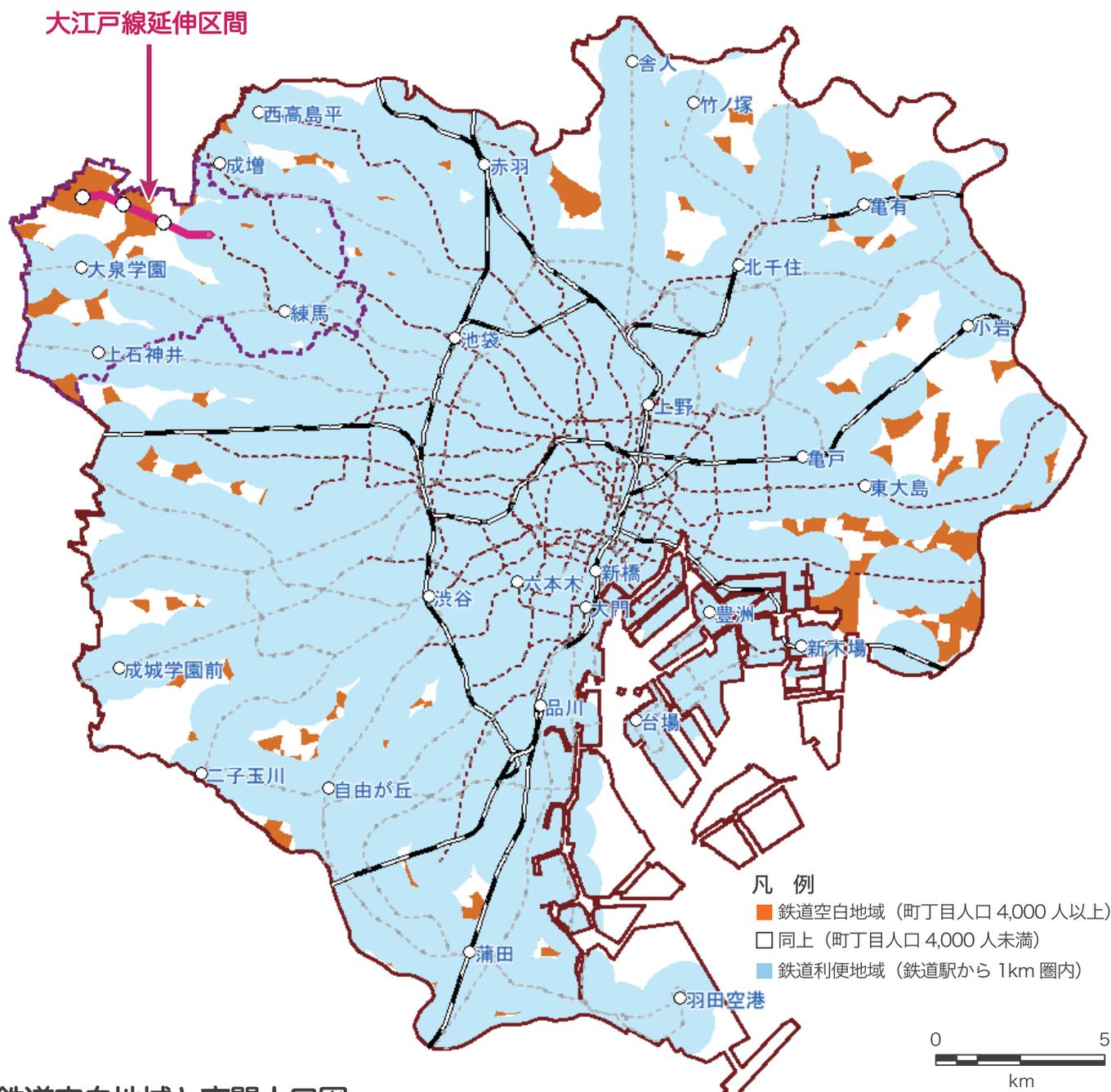
「大江戸線の延伸」は、現在光が丘駅まで整備されている都営大江戸線が、大泉町・大泉学園町地域を通り、JR 東所沢駅方面へ延伸する鉄道ネットワーク計画です。このうち、練馬区内では、都市計画道路補助230号線を導入空間として、(仮称)土支田駅、(仮称)大泉町駅、(仮称)大泉学園町駅の3つの新駅を整備する予定です。

国と東京都における大江戸線延伸（光が丘～大泉学園町）の位置づけ

- 平成27年7月 東京都 「広域交通ネットワーク計画について」
整備について「優先的に検討すべき路線」5路線の1つ
- 平成28年4月 国 「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」
交通政策審議会答申第198号
事業化に向けて「進めるべき」6つのプロジェクトの1つ
- 令和3年3月 東京都 『『未来の東京』戦略』
関係者と事業化について協議・調整を進める
- 令和5年3月 東京都 「大江戸線延伸にかかる庁内検討プロジェクトチーム」を
設置し、検討を開始

▶ 大江戸線の延伸は、国と都から整備について明確な位置づけを得ています

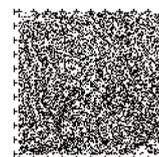
東京 23 区には、鉄道駅から遠く離れた地域がわずかに残っています。大江戸線の延伸は、こうした東京 23 区周辺部に残された鉄道利用が必ずしも便利でない地域内を結ぶことで、沿線の利便性向上に資する路線です。また、都心部中核拠点や都心周辺部とのネットワークが大幅に強化されます。



鉄道空白地域と夜間人口図

出所：R2国勢調査

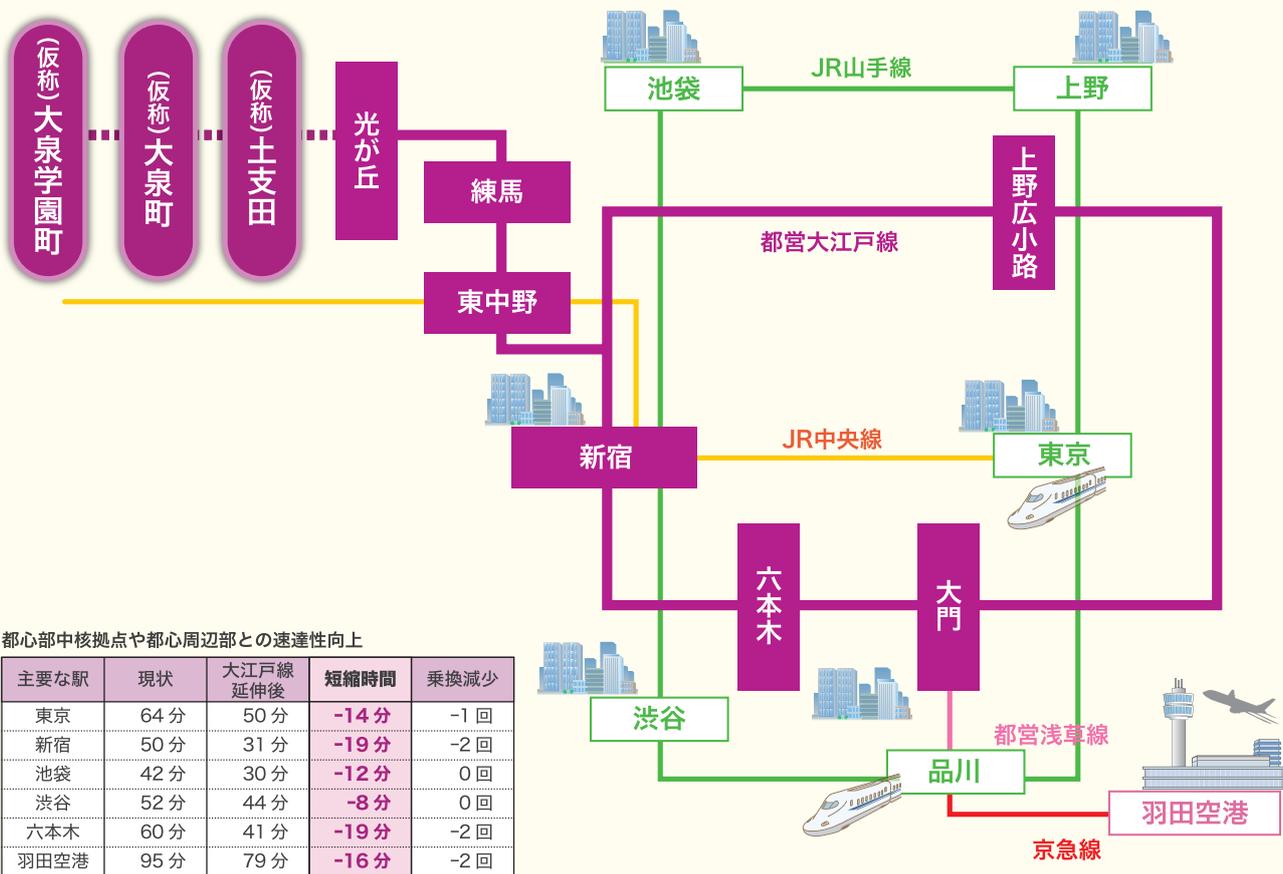
※ 鉄道空白地域：鉄道駅から1kmを超える地域



延伸するとこんな効果もあります

都市部中核拠点や都心周辺部とのネットワークが強化されます

○延伸地域から都心周辺部等への移動時間が短くなります。



都市部中核拠点や都心周辺部との速達性向上

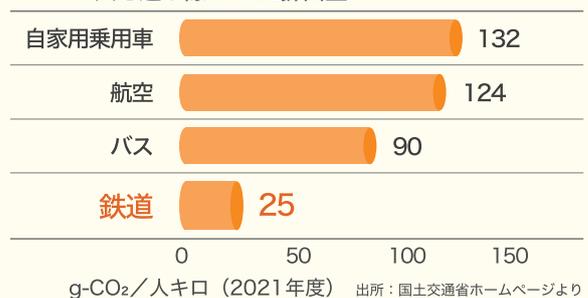
主要な駅	現状	大江戸線延伸後	短縮時間	乗換減少
東京	64分	50分	-14分	-1回
新宿	50分	31分	-19分	-2回
池袋	42分	30分	-12分	0回
渋谷	52分	44分	-8分	0回
六本木	60分	41分	-19分	-2回
羽田空港	95分	79分	-16分	-2回

※1 延伸地域の発着点は(仮称)大泉学園町駅予定地付近を想定。現状の時間は大泉学園駅までバスを利用する前提。
 ※2 延伸後は(仮称)大泉学園町駅から既存の大江戸線に直通する前提。延伸線以外は現状の運行ダイヤが前提。
 ※3 乗換時間は一律5分。但し、同一ホームの乗換は0分。主要拠点に概ね8:30に到着する際の鉄道、バス所要時間が前提。

地域交通の改善と地球環境への影響緩和

○鉄道利用が増えることにより、自家用乗用車などの利用が減り、道路交通の混雑緩和が期待できます。また、CO₂排出量の減少につながります。

交通機関別 CO₂排出量の比較
 - 1人を運ぶ際の CO₂排出量 -



g-CO₂/人キロ (2021年度) 出所: 国土交通省ホームページより

まちづくりが進み、延伸地域がより便利で魅力的なまちになります

○新駅周辺では、生活に便利なお店やサービス施設など新たな立地が期待でき、日常生活がより快適になります。



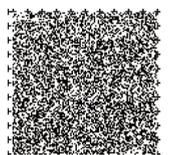
○これらの変化が、延伸地域の活性化や継続的なまちの発展につながります。

○延伸地域での公園散策やスポーツ、野菜や果物の収穫体験などを区民をはじめ、多くの人が利用しやすくなります。



災害時の緊急利用

○東日本大震災の発災時には、首都圏の全鉄道路線が運転を見合わせましたが、再開が最も早かったのが大江戸線でした。今後の発災時の帰宅困難者の救済にも寄与する可能性があり、近隣路線の代替経路としての役割も期待できます。



区は延伸に向けて、取組を進めています

延伸を見据え、今後の地域の活性化やまちの発展につながる良好なまちづくりを進めています



- 大江戸線延伸の導入空間となる都市計画道路補助230号線沿道では、地区計画の決定と用途地域の変更を行い、沿道にふさわしい発展につながるまちづくりを進めています。
- 補助230号線に接続する補助233号線沿道では、地区計画など具体的なまちづくりのルールについて、地域の方々と検討を進めています。
- 新駅予定地周辺では、延伸を見据えて、駅前広場の整備や商業施設等の誘導など新たな拠点としてのまちづくりの検討を進めていきます。特に、(仮称)大泉学園町駅予定地周辺地区では、駅前広場の整備、公共施設の集約化や商業サービス施設の立地などについて、関係権利者と勉強会を行っています。



現在検討中の(仮称)大泉学園町駅前イメージ

※このイラストは、将来のまちのイメージを表現したものであり、当該地の権利者の皆様のご意見を整理したものではありません



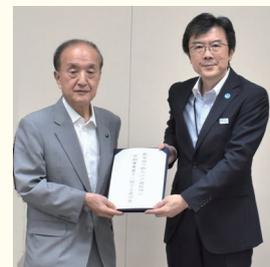
大泉学園通り
(仮称)大泉学園町駅周辺

区民一丸となって様々な取組を行っています

- 昭和63年に、延伸地域の町会、区議会、区が一体となって大江戸線延伸促進期成同盟を設立し、関係機関への要請活動や促進活動に取り組んでいます。
- 平成29年には、さらに全区的な取組とするために、経済・産業団体、町会等8団体と構成する大江戸線延伸推進会議を設置しました。
- 新駅予定地周辺の中学校で、「大江戸線延伸地域の夢のあるまち」のイラストを作成し、新駅予定地周辺に啓発看板として設置しています。



オープンハウスの開催



東京都への要請活動

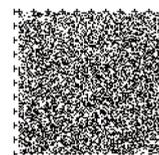


大江戸線延伸推進基金を積み立てています

- 平成23年から、延伸に資するための基金を50億円まで積み立てました。
- 基金は、延伸を実現させるために、必要な費用として活用していきます。

東京都と実務的協議を実施しています

- 平成27年より、延伸に必要となる具体的な事項について、東京都と実務的な協議を実施しています。
- 令和5年度より、東京都の「大江戸線延伸にかかる庁内検討プロジェクトチーム」の設置を受けて、東京都と連携し、更なる検討を行っています。



よくある質問にお答えします

Q1. 光が丘から大泉学園町までの開業はいつごろになりますか？

A: 開業時期は鉄道事業者が決めます。事業予定者の東京都は、事業化の課題と解決策について検討しています。現時点で、開業時期は示されていませんが、区は延伸地域のまちづくりに精力的に取り組むとともに、東京都に対して早期事業化を要請しています。

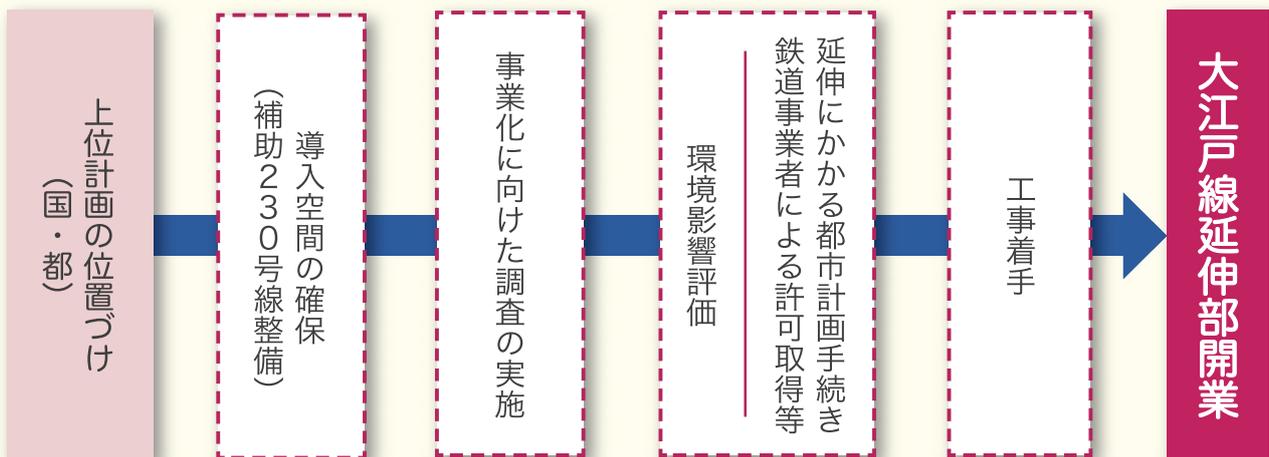
Q2. 新駅ができるとその周辺は、どのように変化しますか？

A: 新駅予定地周辺では、各々の地域の特性に合わせ、駅前広場の整備や商業施設等の誘導、周辺のみどりとの調和など新たな拠点としてのまちづくりの検討を進めていきます。安全・快適に人々が行き交う駅前広場や、公共施設の集約、商業サービス施設の立地により、多くの人々でにぎわう駅前空間、豊かなみどりと利便性を兼ね備えた魅力的な拠点づくりを目指します。

Q3. 今後どのようなスケジュールで進むのですか？

A: 導入空間の確保や事業化に向けた検討を進め、開業に向けた手続きが進められます。

区は、延伸の実現に向けて果たすべき役割を明確にし、まちづくりや東京都への要請活動などに取り組みます。



練馬区 都市整備部 大江戸線延伸推進課

電話 03-5984-1564

FAX 03-5984-1226

